

沖縄県における百日咳の発生動向—主に 2009 年について—

古謝由紀子・下地實夫・桑江なおみ

Surveillance of the Pertussis Occurrence Trend in Okinawa Prefecture in 2009

Yukiko KOJA, Saneo SHIMOJI and Naomi KUWAE

要旨：感染症法に基づく感染症発生動向調査で報告された 2009 年の県内の百日咳の発生動向は、前年比 1.18 と微増であった。従来、百日咳患者の報告の多くは乳幼児であったが、近年成人層が占める割合が年々増加している。成人が百日咳に感染した場合、ワクチン未接種の乳幼児への感染源となることが危惧され、今後は従来の対策の他に、成人層へのワクチン接種、サーベイランス体制について検討する必要性が考えられる。

Key words: 百日咳, 沖縄県, 2009 年, 定点当たり, 年間報告数, 年齢階級別の推移

I はじめに

百日咳は、特有のけいれん性発作を主症状とした百日咳菌による感染症であり、予防接種ワクチンで予防できる疾患 (VPD: Vaccine Preventable Diseases) である。従来、百日咳患者の報告の多くは乳幼児であったが、2007 年以降、県外では大学などで大規模な集団感染発生がみられるようになった。県内では、成人層が占める割合に年々増加傾向がみられ、2008 年には、成人層が子供よりも多く報告 (県内: 53.9%, 全国: 36.4%) された。今回、2009 年までの県内における百日咳の発生動向について報告する。

II 方法

感染症発生動向調査事業要綱に基づき、週報として全国 (約 3,000 カ所) および県内 (34 カ所) の小児科定点医療機関から保健所へ報告された疾患のうち、2002 年から 2009 年までの間の百日咳の患者発生状況のデータを使用し、本報では主に 2009 年の県内のデータを中心に図、表を作成した。

II 結果

1. 年次別患者報告状況の推移

2009 年県内での百日咳の年間報告数は 151 人、4.44 人/定点であり、前年比 1.18 と微増であるが、年々増加している (図 1, 表 1)。県全体でのピークは、9 月 (40 週) における 0.26 人/定点であり、0.3 人/定点を超える流行の期間はなかった (図 2)。

2. 保健所別患者報告数

南部 (7.12 人/定点)、中部 (5.40 人/定点)、中央 (4.56 人/定点)、北部 (0.66 人/定点)、宮古 (0.50 人/定点) の順に多く報

告されており、八重山からの報告はなかった (図 3)。

3. 年齢階級別の推移

0 歳未満 9.9% (15 人)、1—4 歳 6.0% (9 人)、5—9 歳 7.3% (11 人)、10—14 歳 6.6% (10 人)、15—19 歳 0.7% (1 人)、20 歳以上 69.5% (105 人) であった。小児科定点からの報告であるにもかかわらず、成人層が占める割合は、子供よりも多く報告されている (図 4)。しかし、20 歳未満における患者報告数に著しい増加は認められなかった (表 2)。

IV 考察

2009 年には県内では、0.3 人/定点を超える百日咳の流行の期間はなかった。2006 年から 2009 年までの患者報告数の推移では、20 歳未満の者に著しい増加は認められず、小児では、ワクチン接種による免疫効果が影響しているものと考えられる。一方、患者の中で成人の占める割合は年々増加し、また年間報告数も増加している。資料は小児科定点からの報告に限定されるため、実際の成人患者はかなりの数に上るものと考えられる。

百日咳に感染すると、乳幼児では重症化しやすいのに対し、成人では症状が比較的軽い場合が多い。成人が感染した場合、本人が気づかぬうちに、ワクチン未接種の乳幼児への感染源となることが危惧される。今後は、小児への予防接種ワクチン (DPT) 勧奨を積極的に行うとともに、成人層へのワクチン接種、小児科定点以外からの報告体制の構築とサーベイランス体制の整備について検討する必要性が考えられる。保健所別では中南部に患者報告数が集中している理由は、不明である。

表 1. 沖縄県の百日咳患者報告数の経年推移 (2002~2009 年).

	年 (次)								平均
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
報告数	16	37	49	32	31	45	128	151	61

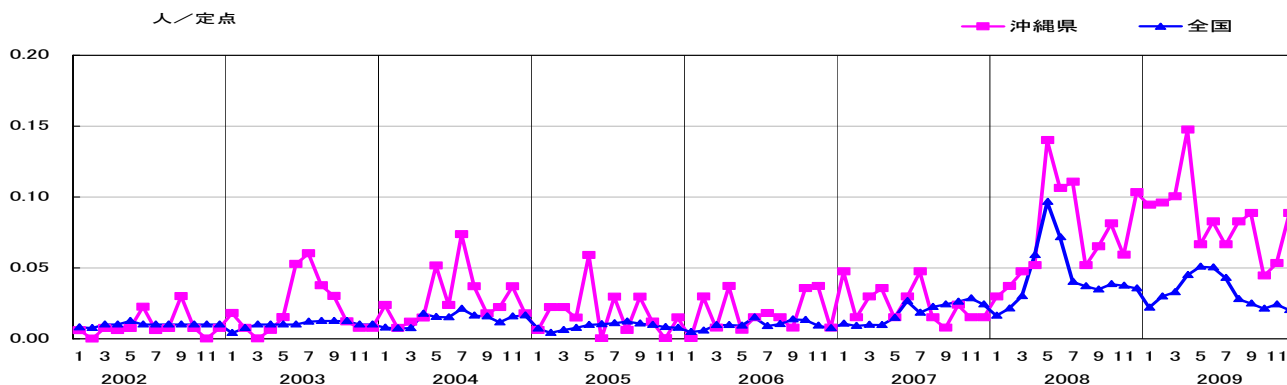


図 1. 沖縄県と全国における月毎の定点当たり百日咳患者報告数 (2002~2009 年).

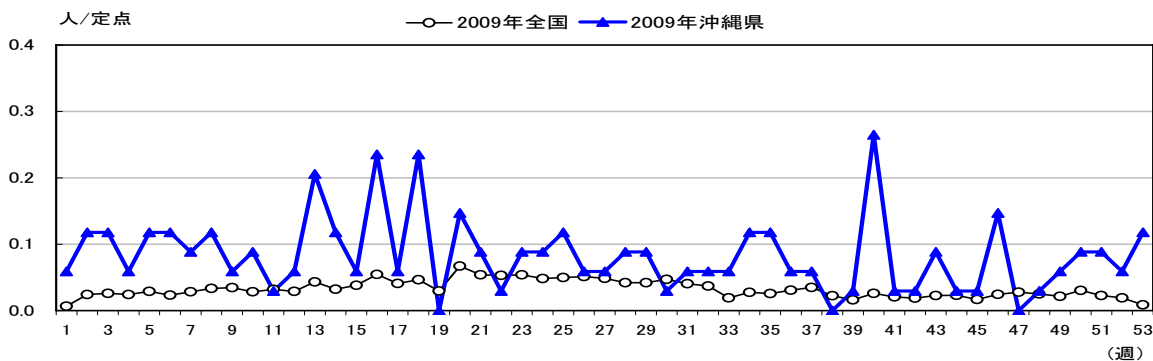


図 2. 沖縄県と全国の週別定点当たり百日咳患者報告数 (2009 年).

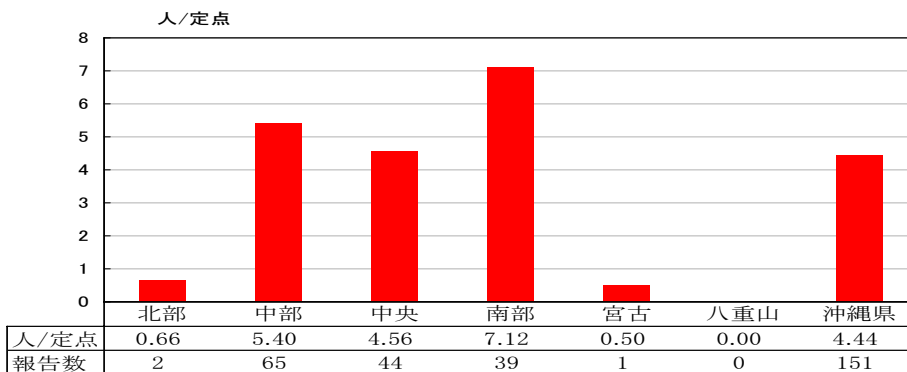


図 3. 沖縄県の保健所別百日咳患者報告数 (2009 年).

表 2. 沖縄県の年齢階級別百日咳患者報告数の推移 (2006~2009 年).

年	年 齢 (歳)						合計
	0未満	1-4	5-9	10-14	15-19	20以上	
2006	17	3	0	0	1	10	31
2007	18	10	0	4	2	11	45
2008	26	13	8	9	3	69	128
2009	15	9	11	10	1	105	151

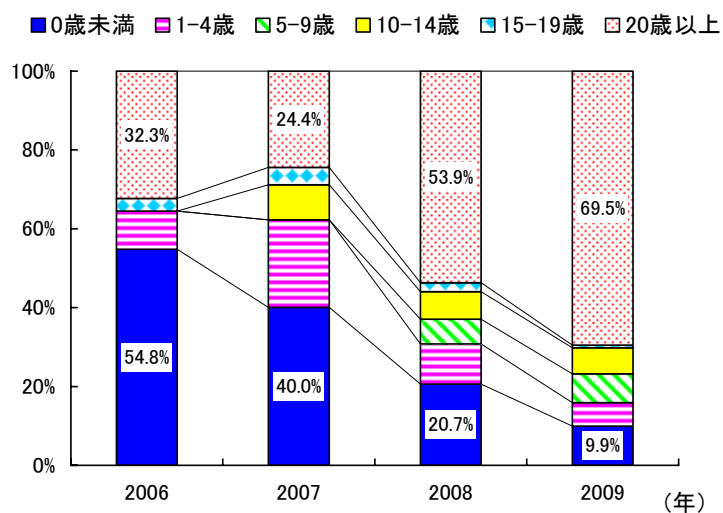


図 4. 沖縄県の百日咳患者の年齢階級別割合の推移 (2006~2009 年).

成人層の占める割合が、年々増加.

参考文献

- 1) 鎌野寛・森知美・前田肇 (2008) 香川大学における百日咳集団感染事例. 病原体微生物検出情報, 29 : 68-69.